

情報連絡員報告を中心とした
県内の中小企業動向
&トピックス・4月

■味噌製造

原油高騰による製造コストの上昇(燃料費、包装資材費等々)をいかに販売価格に転嫁していくかが大きな課題である。

■製材

素材、製材品ともに相変わらず活気がない。特に素材については製品価格を反映して出材が少なく、役物からみの大径材の出材があるものの、中目材などについてはごく僅少である。

製材品は檜の値段がスギに近づいてきて、取引は在庫品の不足を埋める程度のスポットがあるのみである。

■生コン製造

平成17年度出荷累計が前年比15%増と久しぶりに大きく伸び平成16年度から2年連続して前年比を上回った。千葉県でのピーク時は平成2年度であったが平成15年度が最低に落ち込みピーク時の62%となったものを75%までに回復し、もう少しの感がある。

今まではマンション需要が中心であったが、今後は圏央道等に期待したい。

■電気鍍金

【県下全域】

幾分景気は良好と思われるが、このところの原油等の値上がりの影響で主要原材料の値上りが心配される。このことによる景況の悪化も懸念される。

■鉄工

組合員の3分の1を超える企業が売上、受注残とも増加傾向にあり、景況感も良好との結果が得られ、総じて順調に推移しているものとみられる。

■機械金属製造他異業種

3月の決算期と対比するとあまり変化がなかったが前年同月比では増加、好転の気配となった。

■採石

東京方面の埋め立て事業がほぼ終了してしまった。

■建築材料卸売

セメント業界には景気回復は感じられない。景況診断では雨から曇りへの転換とのことであるが、数量も手取価格も好転の兆しがなく、災害復旧が終わった今、実需の底はまだ見えていない。

しかし、業界では産業廃棄物、肉骨粉、古タイヤ、廃材など処分にも困るものをセメントの原燃料として活用し、環境問題に貢献する静脈産業として活路を見出している。また、現在アスベストの処理受入も研究している。

■自動車解体

【県下全域】

非鉄金属市況が活況を呈しているため、アルミを多く含むスクラップエンジンの価格が過去最高値を記録しているほか、ワイヤーハーネスも高い。また触媒も白金など貴金属価格の高騰を反映して、過去最高の価格となっている。

このため、リサイクル法による入庫車両の減少に若干歯止めがかけられ、元気を取り戻してきた。

栃木県足利市の大手解体業者が新たに工業団地内に新工場を建設し22日竣工式を行った。従来の工場が市道拡張に伴い、移転しなければならなくなったため。新工場は、敷地面積7000坪、工場建屋3000坪、総工費30億円あまりと全国屈指の規模である。

■小売

4月は天候不順が続き、前年数字をとれなかった。

■中古車仕入・販売

相場動向は4月下旬の時点で下げ止まったとみる動きが多く、GW明けには活発な仕入を手掛けるとの見方が広がっている。これは供給過剰は正の気配がかかったとの判断がこうした見方の支えになっている。

■小売

前半は、停滞気味であったが、中盤から後半にかけて持ち直してきて、全体的には、今月は良く

■自動車一般整備

組合設立以来始めて減員に転じた。脱退理由として高齢化と後継者難で転廃業が多かった。

■小売

客数は減っていないが、売上が伸びていない。客単価の下落が売上の減少に繋がっている。

■農業機械販売整備

日本農業機械工業会の農機出荷生産統計では7年ぶりに5000億円を超えて堅調に推移した。

■建設

需要は好調を持続しているが、燃料の高騰が心配の種である。

なってきた。

■野田

ただし、国内の販売の第一線では農政改革や米価の値下がり等により苦戦している。本年度は担い手農家を中心とした農政の転換で農機市場はその変化の度合いが加速するものと予想される。

■習志野

大規模農家や営農組織は元気である。ただし、これは全体の14%であり、組合員は残りの86%の兼業農家がお得意様で元気がない。今年度は過去20年間で一番暇な農繁期で南総地区は4月中旬に田植えが終了した。新規需要は殆どなく、試運転程度で作業が終わって、修理も少ない。

■習志野

好況の兆しが見えてきたので、これに対応して如何に売れるものを作るか、如何に売れるかを個々で努力していかなければならない。

■野田

3月の春期講習、新入塾生の確保で一息つく4月であるが、中小塾にとっては年々厳しい状況が続く。

■野田

ゆるやかに好転しているが先行きは不透明である。

■野田

当連合会加入組合員の官公庁(国、県、市町村)からの受注は14億6300万円であった。前月比では、32億8000万円の大幅な減少であった。年度末締めということであるが、今年度は前年同月比でも12億8700万円と大きな減少であった。今年度も厳しい環境であると思われる。

■野田

軽油が値上がりの傾向にあるが、運賃の値上げに至らず苦戦している。貨物の量は増加の兆しがあるもののロットが小さく人件費が増加してしまふ。

■野田

放置駐車車両の取締り強化は貨物配送業者にとって困った問題だ。大手企業は1車両に2人の乗務による対応をしているようだが、小企業にはコストがかかりすぎて不可能な対応である。

■野田

【野田】